

# 目標に向かう強い意志

佐藤トヨさんは、昨年七月、全日本軟式卓球選手権大会に出場し、八十歳代の部で見事優勝、日本一の栄冠に輝きました。

佐藤さんは、西区民センターのほか、市の体育館や地区センターなども利用して、週に四、五日は卓球の練習をしています。しかも、一日の練習は約三時間とハードなものです。



佐藤さんは「六十歳ごろに半身まひになり、リハビリ中に主人から勧められて卓球をするようになりまし」と言います。それが今



では全国一。この頑張りには驚かされます。同じ卓球サークルの部長で、佐藤さんのコーチでもある平野信吾さん（下写真左端）は

「彼女は素直な性格で、我慢強く負けず嫌いです。今年も優勝を目指しますよ」と話します。

平野さんのアドバイスにうなずく佐藤さんの表情は、真剣そのもので迷いがありません。

目標を持って、それに向かつて精進し続ける。その佐藤さんの意志の強さが、病気を克服した原動力であり、いつまでも元気でいられる理由です。



さとう  
佐藤トヨさん

# 自然体でしなやかに

華道・小原流を四十年以上指導している平松タミさん。札幌支部の名誉幹部で、



流派の日本代表として、海外でも教えるという輝かしい経歴をお持ちです。

一方、西野地区センターでの華道教室は、和やかで家族的な雰囲気。五十代、六十代の生徒さんたちの笑い声がこぼれます。平松さんから三十年近く指導を受けている安部咲子さん（下写真左から二人目）は「この教室の魅力は、何と言っても先生のお人柄。本当の

親子みたいに気軽に話せるんです。先生は、おしゃべりで、何にでも興味を持ち、人生に前向きです。私たちみんな、先生のように年齢を重ねたいと思っているんですよ」と話します。

この教室で教えられる小原流とは「基本の形はありますが、自然のままの花の姿を生かし、花を自由に生けることを大切にします」と平松さんは言います。この精神は、平松さんの生き方にも通じるものです。

# 平松タミさん

華道の権威でありながら、肩ひじ張らず自然体で生け花を楽しみ、好奇心いっぱいだしなやかに生きる。

それが平松さんの元気の秘けつで、その生きる姿そのものが、お弟子さんたちのお手本となっているのです。

